

各区障がい者相談支援センター 平成29年度 地域課題に対する取組一覧

区名	テーマ	地域課題	取組内容
北	地域住民による地域福祉活動と障がい者福祉の相互連携による地域福祉の活性化	連合町会ごとに個性的な福祉活動が根付いているが、障がい者福祉への理解や連携が進んでいない。	区社協と協働し、「地域とは何なのか？～地域力を知る」と題して各分野の福祉職・福祉実践者向け学習会を5回開催
都島	①地域の学校生徒に向けた福祉教育プログラムの実施	地域の学校と障がい者支援機関とのかかわりが少なく、学校の生徒たちと障がい者の交流の機会を増やしていかなければならない	区社協と協働し、小中学校3校にて車いす体験や障がい当事者による講話を実施
	②障がい当事者のエンパワメントに向けた「ピア・カウンセリング」の開催	障がい当事者同士がお互いの思いを聞き合う場が地域の中に少ない	「みやこじまピアカン」を区社協との協働で開催(4回)、「ピア・カウンセリング集中講座」開催(3日間)
	③外出の経験が少ない障がい者に向けた、外出のきっかけとなるような企画	地域には障がい者の参加しやすい企画が少なく、外出が困難な障がい者には、制度の不足、本人の心理的な不安、出かけるきっかけがないことなどから、機会づくりが必要	山登り、工場見学を大阪工業大学ボランティア教育研究会と協働実施(2回)
	④地域福祉コーディネータや地域住民に向けた、障がい啓発研修会「広げよう地域の輪」の実施	地域の方たちにとって障がい者の実際の地域生活や、相談窓口に関する情報提供の場が少ない	区社協と協働し、「広げよう、地域の輪」と題して地域住民向け研修会を実施。子どもの発達障がいをテーマに、区内を3ブロックに分けて各1回開催
	⑤区内のバリアフリー課題を実際に歩いて集める	まちづくりにおいて、障がい当事者の声を聞く仕組みが少ないため、声を集めて発信し、改善を求める必要がある	「みやこじま探検隊」として現地調査を実施、「仲間とつながる地域の輪」において報告、参加者の声を集める
	⑥障がい当事者のエンパワメントに向けた「ピアスクール」の開催	障がい当事者同士が学び、考えることができる場が地域の中に少ない	「障害者ピアスクール2017inおおさか」(全8回)を開催
	⑦地域イベントに参加し、地域の方々と交流する	障がい当事者が地域の方たちと交流する場が少ない	「区民まつり&福祉ふれあいフェスタ」など地域のイベントに、障がい当事者がスタッフとして輪投げのコーナーを出店(2回)
	⑧地域の障がい者や家族、関係機関に向けた情報提供のための機関紙の発行	地域の障がい者や家族が情報を得られる場が少なく、わかりやすく制度解説したり、情報発信をしていかなければならない	機関紙の発行(3回)
福島	地域福祉コーディネータに向けた障がい者理解の促進	地域での見守り活動や困りごとの相談を受ける際に、障がいの理解をしたうえで適切な機関につなげる必要がある	地域福祉コーディネータ事務連絡会の研修会において、障がい特性や生活のしづらさ、障がい分野の相談機関などの説明を実施
此花	地域の民生委員・児童委員協議会にて「障害者支援について」の研修会	高齢者には比較的声をかけやすいが、障がい者にはどんな関わりをしたらよいかわからないとの声がある	地域の児童委員・民生委員協議会において研修会を開催し、障がい特性や地域での相談事例、高齢者支援との違いなどを説明

各区障がい者相談支援センター 平成29年度 地域課題に対する取組一覧

区名	テーマ	地域課題	取組内容
中央	災害時の障がい者への配慮等について考える防災訓練の実施	障がい者と健常者の接点が少なく、障がい者理解が進んでいない。また、住民同士の関係性が希薄で、特に障がい者の生活実態が見えにくい。	地域住民と協働して避難訓練を実施し、避難所運営シミュレーションや障がい当事者の視点からのチェック。振り返りにおいて、当事者・住民・避難所運営者で改善策を検討
西	講演会「親亡きあと～親が元気なうちにできる親亡きあとの対策」	親亡きあとの子供の生活の悩み・不安を抱えながら、親が高齢になっていく中で、将来に備えた情報が少ない	障がい者や家族、支援機関等を対象とした研修会を開催
港	①障がい者地域自立支援協議会研修「顔の見える関係」	医療的ケアが必要な場合や、サービスの種類によっては、サービス調整が難しい現状があり、協議会の部会は相談部会のみで、事業所の顔の見える関係づくりを進める必要がある	区内の障がい福祉サービス事業所等を対象とした研修会・交流会の開催(2回)
	②相談支援の円滑な利用、相談支援専門員のスキルアップを含め、相談支援全般の質の向上に向けた取り組み	新規の計画相談支援事業所が立ち上がらない中、既存の相談支援事業所は新規受け入れが困難で、選定も進まない。何をどう進めていけば良いのかが分からないといったケースや、ニーズ整理がうまく進まないなど、個々の相談員が抱える疑問や問題に対して、検討できる場がない	区内指定特定相談支援事業所による相談支援連絡会の開催(12回)
	③緊急時のショートステイ等、受け入れ先についての開拓	緊急時のショート利用について、空きがない、事前面談・登録がされていないなどの理由で受け入れ先が確保できず、障がい者本人が自宅に取り残されてしまう状況があり、緊急時に安心して宿泊可能な場所をできるだけ多く確保する必要がある	入居支援をしている地域のNPO法人と連携し、緊急避難が可能な空き物件の開拓、どのような条件があれば宿泊可能になるのかの検討
大正	地域自立支援協議会の役割について	区地域自立支援協議会が地区の団体代表によって構成されているため、部会開設等による活性化をめざすことが難しかったところ、障がい福祉サービス事業所代表者を委員に迎えたことで、具体的な動きを作り出す必要が生じた	協議会において、外部講師を招いて講演してもらい、委員自身が協議会の役割について考える取り組みを実施
天王寺	障がい者と地域住民とが一緒に楽しむスポーツレクリエーション	住民と障がい者の関係性は希薄で、障がい者理解が進んでいない。また、地域における障がい者リーダーの養成ができていない	アクションプラン推進委員会に参画し、地域住民と障がい者が一緒に参加できる「ポッチャ&レクリエーション広場」を開催
浪速	地域の事業所のコミュニティをつくる	社会資源が不足(特に生活介護)。調整する機能の不足やヘルパー事業所の横のつながり(コミュニティ)が少ない	地域自立支援協議会において、相談支援、就労系、児童系の事業所部会の開催及び合同部会の開催

各区障がい者相談支援センター 平成29年度 地域課題に対する取組一覧

区名	テーマ	地域課題	取組内容
西淀川	①発達障がい児との良好な人間関係のはかり方を学ぶ	地域の保育園、幼稚園、小中学校の保育・教育現場での共通した課題として、障がい児への対応や関係づくりの技術を学ぶ場がない	保育・教育関係者、保護者を対象に、外部講師を招いて「発達障がい者へのソーシャルスキルの指導」のテーマで研修会を開催
	②本人主体の支援について	社会資源が不足し、特に、利用可能な短期入所先が少ない中、なじみのある地域での生活を継続できない利用者が多い	障がい当事者、家族、支援者を対象に、「西宮の重い障がいの人たちはどのようにして地域での暮らしを進めてきたのか」とのテーマで研修会を開催
淀川	地域の方々に相談支援の役割を知っていただき、障がい者が地域で当たり前に暮らせる社会の実現をめざす	計画相談支援事業所が少なく、利用ニーズがカバーできていない。また、相談支援のメリットが伝わりにくいため、必要性の高い方でもセルフプランを選んでいる	地域自立支援協議会研修会として、「地域で暮らす～あたりまえの生活を目指して」のテーマで開催。障がい当事者の講演と相談支援専門員との交流を実施
東淀川	制度の垣根を越えて、協力しながらケース対応を行う	特に、高齢の両親と、精神障がいのある子の世帯が多く、区内の社会資源の連携を強化する必要がある	区保健福祉センターが主催する総合的な相談体制の充実事業（見立ての場）を積極的に活用し、ケース対応を行う（12回）
東成	①「障がいと高齢のいろいろ相談会」の開催	いわゆる8050問題などのような多問題家庭が増加しているため、高齢・障がい双方の専門機関によるワンストップの相談体制が求められている	おおむね2か月に1度、区役所にて相談ブースを設置、包括・ランチと相談支援事業所とで対応
	②地域生活支援システム会議（障がい者専門分野）への参画	障がいのある方の防災の課題をはじめとする地域での暮らしについて、どのような仕組みがあれば、より暮らしやすくなるのか、専門家だけでなく、地域の方々にも取り組める方法を考えることが求められている	区、区社協、見守り相談室、歯科医師会、民生委員、地域福祉活動サポーター、障がい者相談員などが集まり、障がいのある区民への支援課題を協議し、自立支援協議会や区政へ提言
	③中本いろいろ相談会	地域のつながりから福祉問題について芽の小さいうちに解決できるよう、顔の見える範囲での支援体制を築けるようにする	地元の老人いこいの家にて、地域福祉活動サポーター、民生委員、地域団体、包括などととも相談会を開催（毎月）
	④区民啓発講座	民生委員や地域福祉活動サポーターなど地域の福祉活動が盛んで関心も高いが、さらに、身近な話題から「わがこと」として捉えられるよう、広く啓発が必要	「きらっと☆東成2017 我が事・丸ごと・お節介のすすめ」として、外部講師の講演、地域のつながりづくりをテーマとしたシンポジウムを実施
	⑤在宅医療・介護連携推進実務者会議	多問題家庭への支援が課題となっており、在宅医療・介護・障がい者支援の各機関の連携が求められている	在宅医療・介護連携推進実務者会議と連携し、ケアマネ向け研修会（3回）、多職種連携会（4回）を開催
	⑥認知症等支援検討チーム（仮称）	医療・介護・障がいの連携が進む中、互いの機能や役割を明確にすることで、うまく相互活用し、専門性の高い支援を速やかに提供する体制づくりが急務となっている	包括・ランチ・見守り相談室・オレンジチーム・在宅医療介護連携相談室・障がい者基幹センターで共同使用できるスクリーニングシート（情報共有シート）を作成

各区障がい者相談支援センター 平成29年度 地域課題に対する取組一覧

区名	テーマ	地域課題	取組内容
生野	地域住民や関係事業者への障がい理解	高齢者が多い地域であり、高齢者と同居の障がい者の高齢化が進んでいる。高齢者向けの訪問介護事業所も多く、その半数は障がいのサービスも行っているが、障がいへの理解を深める必要がある	事業所、地域住民対象のセミナーを、意思決定支援の基本的な視点をテーマに開催
旭	支援が必要な子どもたちの就学について考える	学校選択制、区内に2校ある支援学校か地域の学校かなど、就学先を悩む方が多い	夏休み期間を利用し、区内10小学校にて相談会を実施
城東	障がい者の自立生活を広く周知するための活動	多くの障がい者が地域で生活を送っているが、なかなか障がい者が地域で生活していることが理解されていない	一人暮らし、シェアハウス、グループホームなど地域での生活の様子を掲載した冊子『城東自立物語』の作成・配布
鶴見	①地域とのネットワークによる福祉教育プログラムの開発と実践	15歳未満の人口比率が高く、若い世代の家族が多く、様々な世代、属性をもつ住民の相互理解、つながりの強化が地域づくりにおいて重要な課題となっている。そのため、次世代を担う子どもたちの人権意識の醸成を教育現場、地域福祉関係機関と共に働きかけ、将来にわたる地域の福祉力強化に結びつけていくことが必要	教職員を対象に「先生のための福祉教育講座」開催。各教育現場で実践できるよう、教職員や地域社協と協働して福祉教育プログラムを企画・実施
	②地域生活を支えていくための他職種連携について学ぶ	家族構成員全てが何らかの福祉ニーズを抱えているケースは珍しくなく、もはや1分野の専門職のみで地域生活を支えていこうとするのは困難であり、「分野を問わない包括的な相談支援の実施」が目標である	多分野の相談援助専門職を対象に、外部講師を招いて研修会を開催し、ネットワーク形成の意義や手法について学ぶ
阿倍野	親亡き後の障がい者の自立支援を考える	高齢の両親が障がいのある子を自分たちだけで抱えているケースが多い。今までは、地域でも見守りということができていたが、新興住宅がたくさん建ち、昔ながらの関係性は薄くなっている	主に知的障がい者と暮らす高齢の親に情報提供するために、法人の家族会にて相談支援の役割と成年後見制度について説明
住之江	地域住民に向けての防災に関するワークショップ	台風による大和川氾濫の危機に直面したことから、誰もが安心して暮らせる地域をめざしていくために、早急に地域福祉の視点から防災について考える必要がある	地域の自主防災組織と連携し、防災をテーマに、広く障がい当事者を含む地域住民を対象としたワークショップを開催。地域の病院の多目的ホールを会場に、講演やグループワークなどを実施
住吉	日中活動事業所の啓発	高齢の親と同居して外とつながっていない40、50代の障がい者がまだまだ地域に埋もれている	地域自立支援協議会として、生活介護、就労系事業所、地域活動支援センター、放課後等デイサービスなどについて、主な事業所の紹介、活動の中で作っている製品、通所者の声等を入れ、視覚的にどんなところかをイメージしやすい冊子「障がい者日中活動系サービスハンドブック」を作成

各区障がい者相談支援センター 平成29年度 地域課題に対する取組一覧

区名	テーマ	地域課題	取組内容
東住吉	自立支援協議会の活性化	自立支援協議会の活動が十分に知られておらず、協議会として障がい当事者の意見を聞く場所も無い。また、居住系サービスの連携がない。	自立支援協議会において全体会の開催、当事者部会設置準備、居住系連絡会設置を行い、協議会の活性化を図る
平野	地域の実情を踏まえた相談支援に係るネットワークの構築	障がい手帳の発行数は24区中最大で、他区に比べ知的障がい者や精神障がい者が著しく増加。単身生活者の増加や高齢化、親亡き後の支援など、より深刻化した福祉課題への対応、施策横断的な他分野との連携など、様々な地域課題が山積している	地域自立支援協議会相談事業部会の毎月定例開催と、他分野との積極的連携を通じて、地域の相談支援事業者に対する後方支援の強化に努める
西成	①コミュニティソーシャルワークの実践	潜在的ニーズの発掘	アウトリーチを含む包括的な相談、地域交流会(夏祭り)、誰でも参加できるコミュニティ食堂の運営、手話カフェ・居場所カフェの開催など、多彩な活動を展開
	②親亡きあとも安心して地域生活を続けるために	高齢の親と障がい者の世帯が増えており、親から他者支援につないでいく必要がある	親が元気なうちに他者支援につないでいけるよう、リリーフノートの作成の啓発や当事者・家族の交流会・勉強会を開催